

〔短 報〕

岐阜県博物館（仮称）の資料収集

宮 崎 惇

現在のような経済状態では、昭和51年5月開館予定という計画が若干変更されるかもしれないが、置県百年記念事業のひとつとして、建築工事がはじまった岐阜県博物館の資料収集について紹介し、批判を得たいと考える。

岐阜県博物館基本構想（1971）では、「本県の人文・自然兩分野にわたる諸資料を公開し、あわせて教育普及活動を行うことにより、広く県民の学習の場となり、また自然や文化財保護の精神の涵養に役立て、新しい教養と文化の発展に寄与することを目的とする」とのべ、岐阜県という郷土をふまえての総合博物館をめざしているが、全くの新設館をつくることになる、その機能を十分果たすために、**もの**と**場所**と**ひと**のことが、互いに関連した形で、ほぼ平行して進められる場合が多い。

博物館は**もの**（博物館資料）を中心として、その機能が発揮される。まず収集しなければならない。新設館における資料収集法を分類すると次のような形態が考えられる。

1. **もの**がすでに収集されている場合
 - a) 積み重ねられた収集活動によって、収集品が展示等に十分役立つ量になった場合。
 - b) 大きなコレクションの入手や故人の揃っている遺品あるいは記念物等を中心に展開する場合。
 - c) 建物を設計する以前に計画的に収集されている場合。
 2. **もの**を新しく収集する場合。

展示計画の優先度による分け方もあろうが、新しく資料収集する場合は、当然計画なり構想なりがあるものとして考える。
- A. **もの**と**場所**との優先度による分け方
- a) 資料収集優先……収集してから建物や展示の設計をする場合

- b) 場所優先……建物の設計の方が資料収集より先行する場合。
- c) 両者平行……互いに話し合って進める場合。ただし非常にむずかしく、どちらかといえば時間的な関係から場所優先へ移行しがちである。

B. 収集法による分け方。

- a) 顕在的資料収集……展示計画等にもとづいて実際に資料を集める場合。
- b) 潜在的資料収集……収蔵庫等入れものがまだできあがっていない新設館などでよくとられる方法で、展示計画等にもとづき、借用・寄託・寄贈等の確認を中心にして、ものは原所有者に保管しておいてもらう場合。

短期展示の出品物等はこの形態が多い。

c) 両者併用

C. 展示資料とその他の資料との優先度による分け方。

- a) 展示資料優先……まず展示計画にある直接資料の収集を行う場合。
- b) 両者平行……展示の直接資料もその他の資料も同じウエイトをかけて収集活動をする。ウエイトのかけ方によって「展示資料優先」寄りの場合等、中間型が現われる。

博物館新設の場合、**もの**の優先主義が理想とされてきたが、実際には上記1のように集まりきった段階でつくる例は少なく、2の新しく収集する場合もA-aのよいことはわかっているが、諸般の事情から実際例は少ない。

岐阜県博物館の場合も例の少なくない方に属し、2-A-c)、B-c)、C-a)の方法を主に次表のような資料収集活動を進めている。

（みやざき・じゅん＝岐阜県教育委員会・博物館開設準備室）

岐阜県博物館における資料収集活動

